

# 合成開口レーダの干渉処理による富士山 DEM

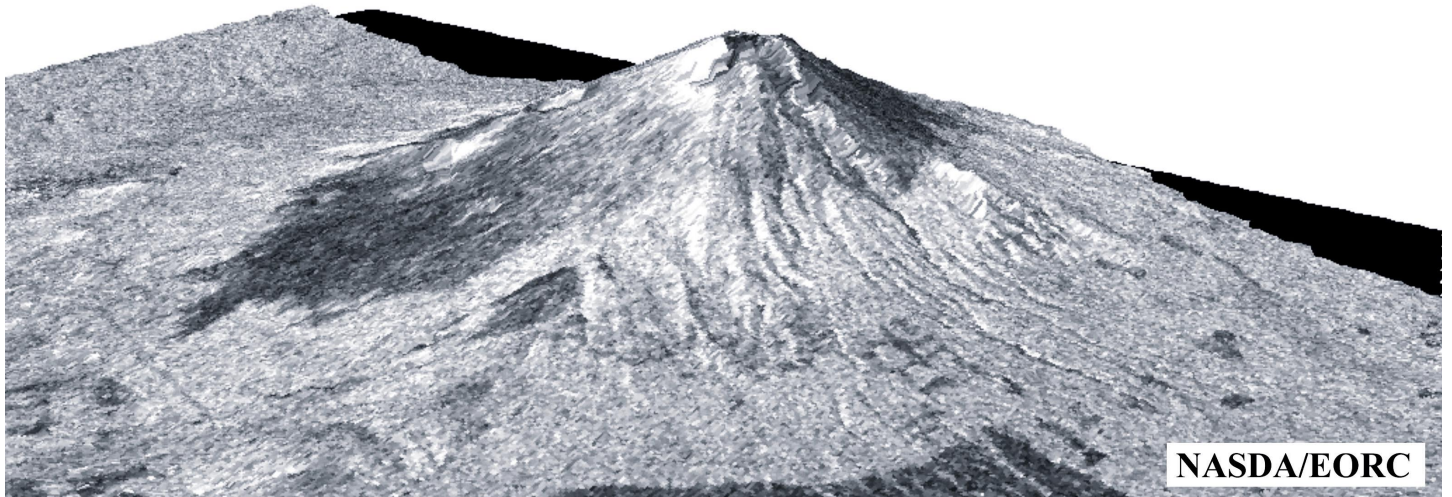


Fig. 1

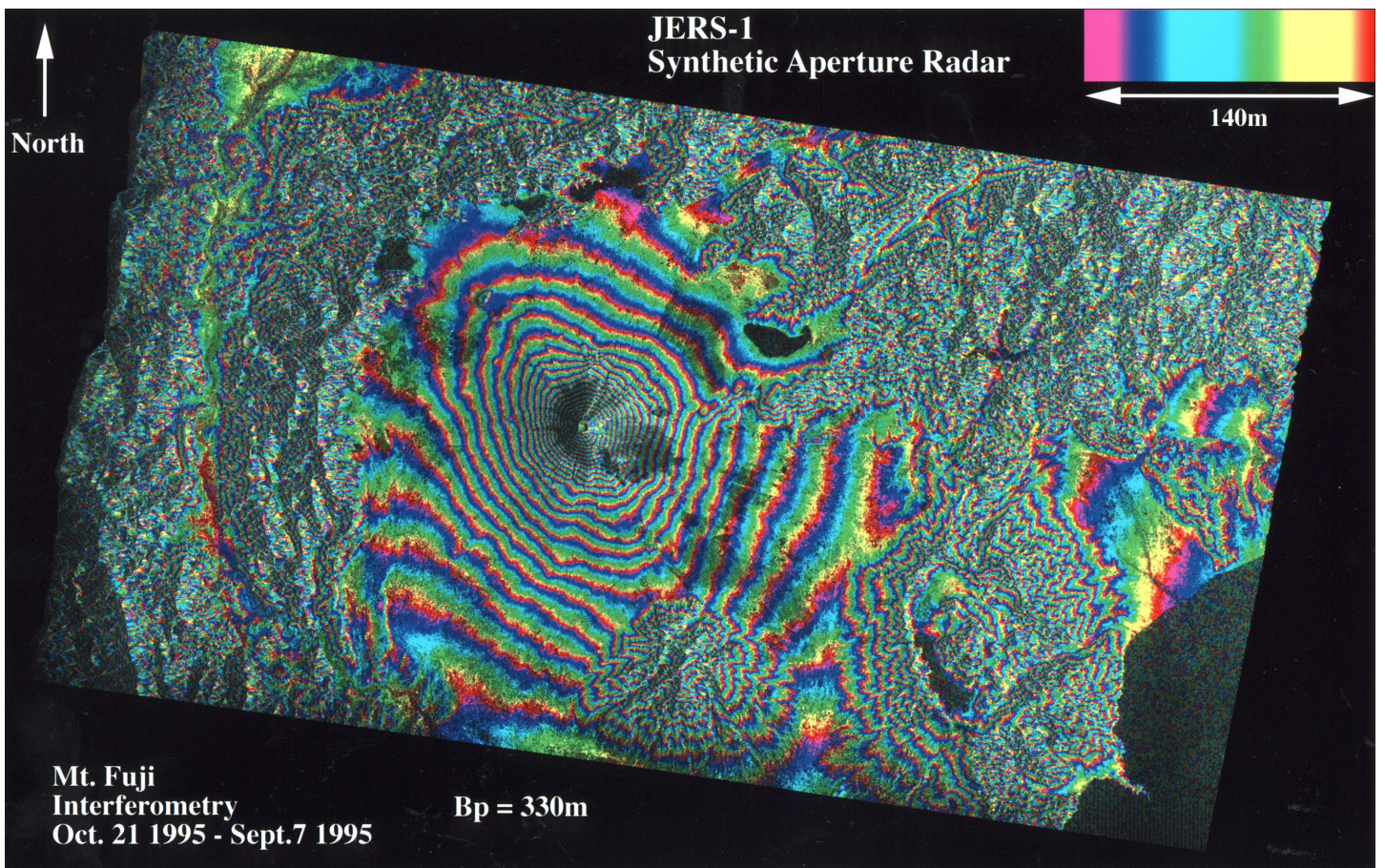


Fig. 2

## 合成開口レーダの干渉処理による富士山DEM

SAR 画像の干渉縞（位相差）には高度情報、地殻変動、水蒸気情報などが含まれます。干渉するかどうかは、軌道間隔、信号品質、観測物の時間劣化の具合に依存しますが、良好に干渉した場合には、軌道情報の補正を行うことにより高さが抽出できます。本図は、1995年9月7日と同年10月21日の画像（軌道間隔330m）から求めたものです。一部分、干渉が不十分で高度情報の抽出に失敗した箇所もありますが、良好な場所では国土地理院発行の国土数値地図と比較しても遜色なく、標準偏差で約31mの結果が得られました。fig.1は干渉処理で求めた高度情報にSAR画像を重ね合わせ、西方向に投影したもので、富士山、山中湖、愛宕山などを含み東西約27km南北20kmの広がりを持ちます。fig.2は等高線図です。

